

東海第二発電所では、これまで、第25回定期検査期間を延長して、東北地方太平洋沖地震により影響を受けた機器の補修、交換と東京電力・福島第一原子力発電所事故を踏まえたさまざまな安全性向上対策を実施しています。

ここでは、津波から発電所を守る浸水防止対策、全ての電源がなくなった時の電源確保対策、万一すべての電源がなくなっても原子炉等へ注水し冷却するための冷却機能確保対策のほか、緊急時の対応体制の整備、強化や、いろいろなケースを想定した訓練などを行っています。これらの安全性向上対策の実施状況をご紹介します。
なお、第25回定期検査の燃料装荷時期及び定期検査終了時期については未定です。

東海第二発電所の安全性向上対策の実施状況

安全性向上対策		○：実施済	○：実施中または今後実施
浸水防止対策 ・安全上重要な設備の津波による浸水防止	○ 配管等の建屋貫通部の隙間の密封化や建屋の外側に地上8mの防護壁を設置	→	
	○ 安全上重要な建屋の扉を水密扉に取替	→	
	○ 津波で浸水した取水口北側ポンプエリアの水の流入経路を特定し、閉止した。	→	
	○ 海水ポンプ室の防護壁の更なる嵩上げ	→	
	○ 防潮堤の設置	→	
電源確保対策 ・電源喪失を起こさないため電源を多重化、多様化	○ 移動式の低圧電源車を配備	→	
	○ 非常用ディーゼル発電機の代替となる高圧電源車を配備	→	
	○ 高圧電源車と所内電源をつなぐ電源ケーブルを敷設	→	
	○ 恒設の空冷式発電装置の設置	→	
冷却機能確保対策 ・原子炉や使用済燃料プールの冷却手段を多様化	○ 大容量ポンプ車を配備	→	
	○ 消防車や可搬式ポンプ・ホースを配備 (発電所内の複数のタンクを水源として活用)	→	
	○ 原子炉や使用済燃料プールへの専用給水配管を新設	→	
主な実施状況		□：実施済	□：今後実施
 非常用ディーゼル発電機を設置した建屋への浸水防護壁		 水密扉（閉止状態）	 水密扉（開放状態）
電源確保の多様化  移動式低圧電源車（左、中央）と専用電源ケーブル搭載車（右）		電源確保の拡大  空冷式の大容量高圧電源車	
		電源確保の更なる拡大  恒設の空冷式発電装置（イメージ）	
冷却手段の確保  消防車		冷却手段の多様化  可搬式ポンプ	
		 大容量ポンプ車（手前）とホース延長車（奥）	

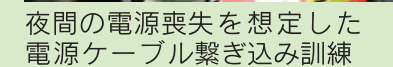
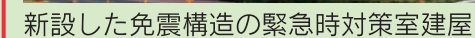
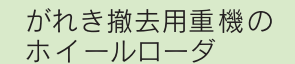
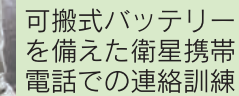
●：実施済 ○：実施中または今後実施

(1) 万一の過酷事故を想定した対策

- 中央制御室の作業環境を確保
- 発電所構内通信手段の多重化、多様化
- 高線量対応防護服配備と放射線管理体制の強化
- がれき撤去用重機（ホイールローダ）配備
- 水素爆発防止対策（原子炉建屋ベント装置設置）

- 免震構造の緊急時対策室建屋を新設
- 運用マニュアルに安全性向上対策を追加、整備
- 原子力災害防止に係る業務の専任者配置
- 水源確保要員及び電源確保要員の24時間体制構築
- 電源車から電源盤への電源ケーブルの繋ぎ込み訓練
- 大容量ポンプ車を使用した復水貯蔵タンクへの冷却水補給訓練
- 夜間の対応訓練

☐ : 実施済



(平成 24 年 4 月 1 日から施行)